

十二色のじじ

奄美市立住用小学校 二年 かわい すずな

ある日、すみよう村に小雨がふって、そのあとに、七色のきれいなじじが出てきました。

すうちちゃん、空を見上げながら、

「わあ、きれいなじじ。あのじじのわたぶすてきだらうなあ。」
と言いました。もうじじをながめてくるじじ、じじのまにかすうちちゃんは、おむっこしていました。

目がめぐるじじ、すうちちゃんは、じじの上で立っていました。じじは、遠くから見ると、七色だと思っていたのに、いま、すうちちゃんがのっているじじは、金やぎん色などもあつて、十二色のにじでした。すうちちゃんは、七色のにじもきれいだけど、十二色のじじは、もっときれいだなあと思いました。

すうちちゃんは、青色のみちを歩いていきました。そこは、かがやく夏の海が広がっていました。

「およいだら気もちいいだらうなあ。」

じじ、すうちちゃんに言いました。

「あ、ほかのみちにもいってみたい。」
すうちちゃんは、じじに、みじりのみちをすすみました。そこは、春のじじのする、のはらじじだ。

「おひるねをしたら、気もちいいだらうなあ。」
じじ、すうちちゃんに、言いました。

「このじじって、すてき、いろんなばしょにつながっているんだ。」
すうちちゃんは、じじのじじに、色のみちを歩いてみました。

赤色のみちは、いちごばだけです。すうちちゃんは、いちごを一つまんでみました。

黄色のみちは、レモンばだけでした。すうちちゃんは、ひと口がじってみました。あま、すっぱいあじでした。

むらさき色のみちは、ぶどうばだけでした。ひとぶをもらってかえりました。

オレンジ色のみちは、みかんばだけでした。すうちちゃんは、かごをもつてくればよかつたなあと思いました。

ちやいろのみちは、チョコレートじじじょうでした。とろとろのチョコレートに、ひとさしゆびをつけてペロリとなめました。

「あまい。おいしい。このじじのみちって、わたしのすきなものは、かりがいっぱい。とつてもとつてもすてき。」

じじ、すうちちゃんに、じじげんです。でも、そろそろ、おなかは、いっほいです。

ピンクの道は、さくらなみき、金色のみちは、かがやく月入のみち、ぎん色のみちは、またたくほし入のみちでした。

黒色のみちを、キドキしながら歩いてくくと、白じじのじじが、びよんとはねてきました。

「おは、じじ。」

じじ、おは、じじ、あたりは、まっ白になりました。
すうちちゃんは、びっくりして目をわめました。そこには、フ

「ルーツばたけも、チョコレート工場もありませんでした。
「ああ、ゆめだったんだ。でも、とってもいいゆめをみちゃった。」